

大阪府AYA (adolescents and young adults)世代における白血病・リンパ腫診療の実態調査

大阪府立成人病センターがん予防情報センター

中田 佳世、井岡 亜希子、宮代 勲

大阪府立母子保健総合医療センター 血液・腫瘍科

井上 雅美

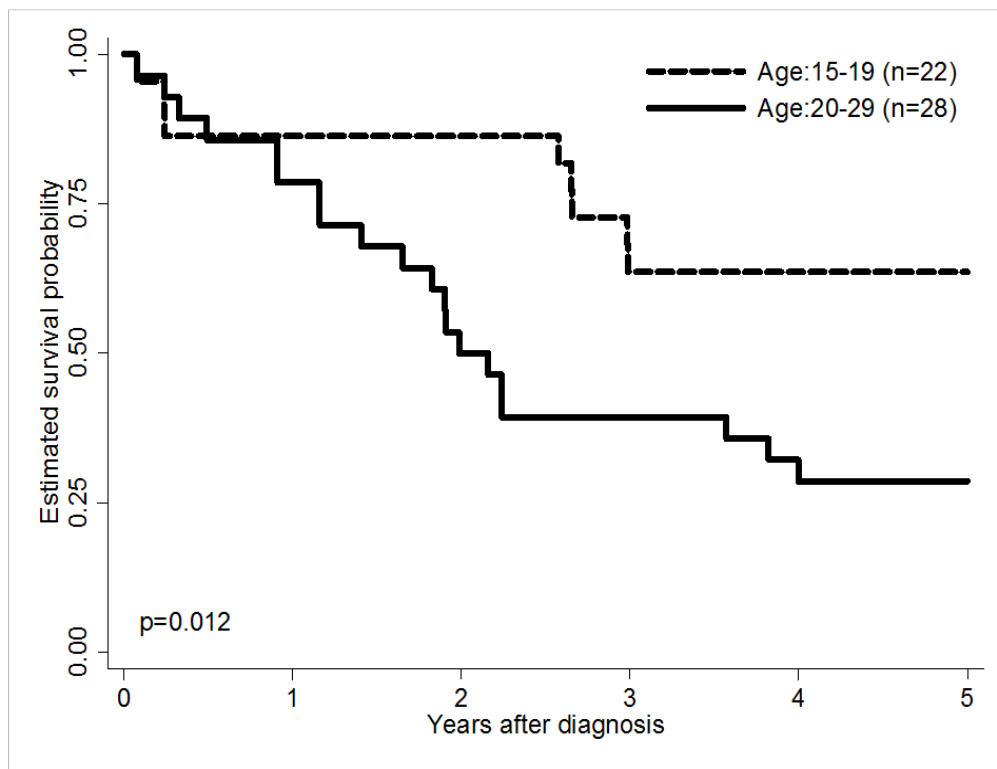
大阪府AYA (adolescents and young adults) 世代における白血病・リンパ腫診療の実態調査

～前回までの結果～

大阪府がん登録資料に基づき、
①2001年から2005年に白血病・リンパ腫と診断され、②大阪府の国指定／府指定がん拠点病院(60施設)で診断または／かつ主治療を受けた、大阪府在住のAYA世代(15歳から29歳)の患者211名を対象に、治療施設、生存率についての調査を行った。(生存率はKaplan-Meier法で算出)

小児科で診療されていたのは、15-19歳の12例(5.7%)のみで、多く(171例、81%)が血液内科で診療されていた。20-29歳の急性リンパ性白血病(ALL)の5年実測生存率が、15-19歳に比べて有意に低いことが明らかとなった。

AYA世代のALLにおける
年齢階級別5年実測生存率曲線



～大阪府におけるAYA世代の 急性リンパ性白血病診療についての2次調査～

- ① 今回調査したAYA世代(15-29歳)の急性リンパ性白血病(ALL)の50例について、治療プロトコールや臨床研究への参加の有無などの2次調査を行った。
- ② ALL患者を診療した、府内がん拠点病院の(血液)内科に対して、現在の診療状況についてのアンケート調査を行った。

【2次調査協力施設】

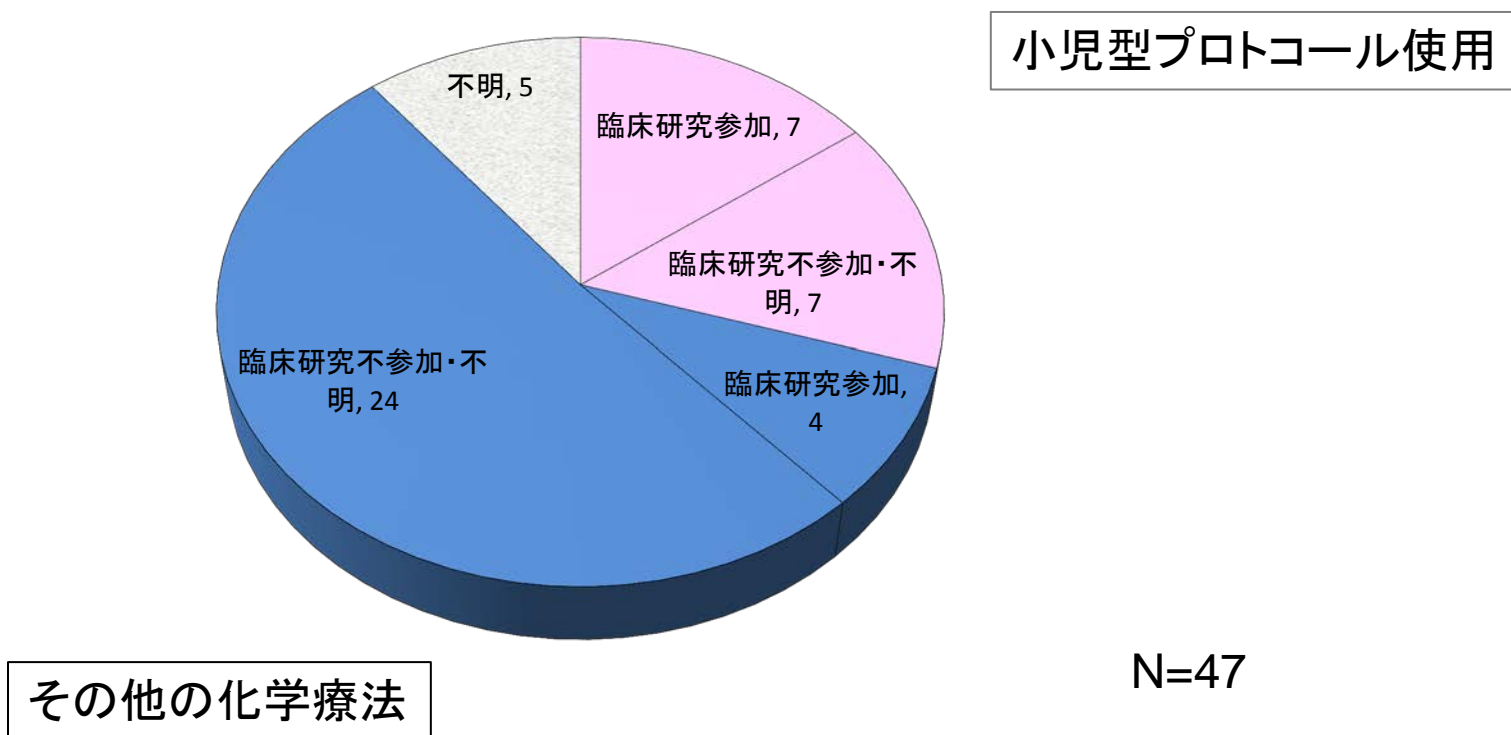
20施設中19施設から回答いただきました。ありがとうございました。

大阪市立大学医学部付属病院	星ヶ丘厚生年金病院
大阪大学医学部付属病院	府中病院
近畿大学医学部付属病院	市立岸和田市民病院
大阪市立総合医療センター	松下記念病院
大阪府立成人病センター	大阪府立母子保健総合医療センター
市立吹田市民病院	りんくう総合医療センター
関西医科大学付属枚方病院	
住友病院	
市立豊中病院	
大阪医科大学付属病院	
大阪赤十字病院	
北野病院	
市立堺病院	

①AYA世代の急性リンパ性白血病治療に関する2次調査

50例中47例について、回答を得た。(回答率=94%)

治療プロトコールと臨床研究への参加



臨床研究に参加していたのは11例(23.4%)、
小児型プロトコールを使用した臨床研究に参加していたのは7例(14.9%)のみであった

① AYA世代の急性リンパ性白血病治療に関する2次調査

AYA世代のALL患者の死亡リスクハザード比 (Cox Hazard model)

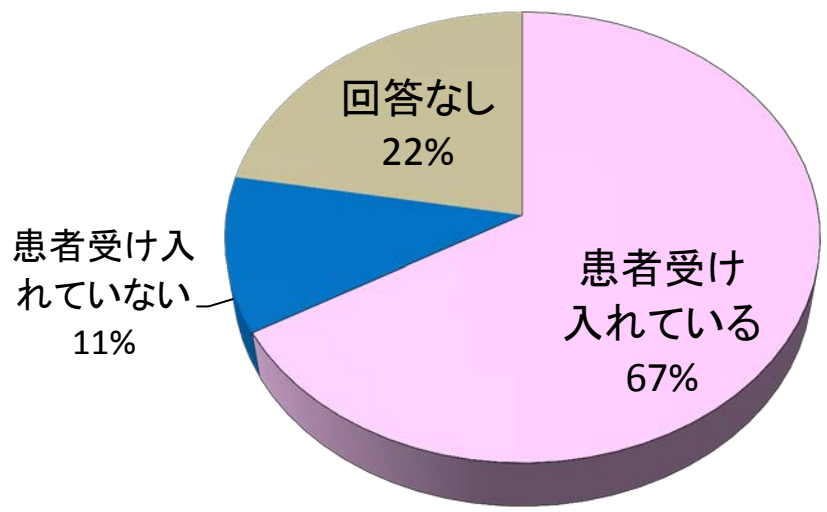
Multivariate analysisではプロトコール、年齢、臨床研究参加の有無で調整。

	Univariate analysis			Multivariate analysis		
	HR	95%CI	p-value	HR	95%CI	p-value
プロトコール						
小児型プロトコール	1			1		
小児型以外	3.03	1.04-8.85	0.04	2.24	0.74-6.73	0.15
年齢						
15-19歳	1			1		
20-29歳	3.40	1.35-8.58	<0.01	2.79	1.08-7.23	0.03
臨床研究への参加						
参加	1			1		
不参加	1.32	0.49-3.51	0.58	1.04	0.36-2.97	0.94

②AYA世代の急性リンパ性白血病患者を診療していた 府内がん拠点病院（血液）内科18施設へのアンケート結果

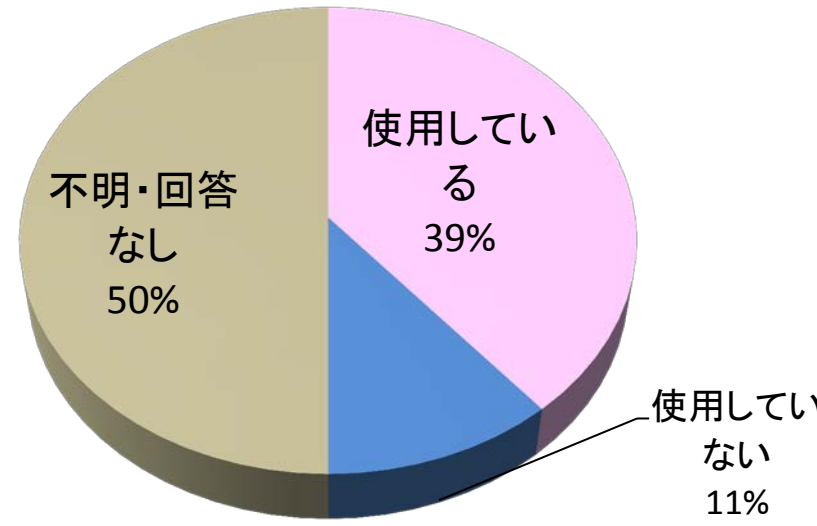
18施設中14施設について、回答を得た。（回答率＝77％）

AYA世代の患者受け入れ



N=18

小児型プロトコール使用について



N=18

まとめ

大阪府のAYA世代のリンパ腫・白血病患者の多くが、血液内科で診療されていた。

年齢階級別、疾患別の5年生存率を算出したが、若年成人（20-29歳）のALLにおける生存率が低かった。

AYA世代のALL患者についての追加アンケート調査結果からは、小児型のプロトコール使用例、臨床研究参加例が少ないことが明らかとなった。

考 察

近年、AYA世代のALLに対し、小児型のプロトコールの有効性が報告されているが、年齢が上昇するにつれ血栓症などの治療関連合併症が増加しやすく、治療アドヒアランスを保ちにくいなどの問題点も報告されている。また、それぞれの研究の年齢対象が統一されておらず、多くは20歳未満を対象としているため、20歳以上のAYA世代のALL患者に対する治療法の評価は十分に行われていない。

今後は、若年成人のALL患者を対象とした臨床研究の開始と臨床研究参加への工夫が望まれる。大阪府がん診療連携協議会小児・AYA部会において、AYA世代のリンパ腫・白血病患者における課題を共有し、小児科と血液内科が連携して治療や精神社会的サポートにつき検討していく必要があると考えられた。